

# 合併五周年記念イベント

十月は、奥出雲町合併五周年を記念し、様々な催しが行われ多くの人が参加しました。

## 第五回

### まちおこし大綱引き大会

第五回まちおこし大綱引き大会が十月三十一日、町と自治会長会連合会が主催し、横田小学校校庭で開催されました。

町内九地区から出場した各代表チームは、相手の出方を見ながら引いたり、始まりと同時に一気に引いたり、各チームの作戦が練られたハイレベルな熱戦を繰り広げました。

## 【成績】

優勝 八川おおたに  
準優勝 鳥上参舞  
第三位 横田



▲優勝チーム・八川おおたに

### 奥出雲町健康福祉大会

十月二十三日、奥出雲町健康福祉大会が、横田コミュニティセンターで開催され、式典のほか、多彩な展示、イベントが行われました。（町社会福祉協議会と町が共催）

式典には、民生児童委員、健康づくり推進委員など関係者約三百人が出席し、町社会福祉協議会の田中和夫会長から「健康で安心できるまちづくりを基本理念に事業展開し、地区単位での福祉活動への支援や多様な福祉サービスを行っていきたい」とあいさつされました。

また、町内の福祉活動における功績が認められた個人一名、四団体への感謝状贈呈、町内で活動を行っている三団体の活動発表がありました。会場ロビーなどに設けられた展示スペースでは、福祉活動や健康啓発のパネル展示、



▲パネル展示の様子

テレビ電話体験コーナーなどが設けられ、来場者は、町内で展開されている健康福祉活動への関心を深めていました。

### 「元気」をプレゼント じゅん＆ネネコンサート

大会に併せ、じゅん＆ネネ「みんなで『元気！元気！元気！』コンサート」が開催されました。

コンサートでは、奥出雲町をイメージして作曲した「奥出雲恋唄」など二十曲を歌い、訪れた観客は、精力的に活動する二人から「元気！」をもらい、コンサートを楽しくしていました。



▲元気いっぱいのコンサート

## 第九十四回 仁多郡陸上競技大会

第九十四回仁多郡陸上競技大会が十月十日、三成公園陸上競技場で開催されました。

この記念大会に特別招待として、パナソニック陸上競技部監督で、箱根駅伝の解説などでも活躍されている横溝三郎氏、また同部所属で、2008世界ジュニア選手権（三千メートル障害）で優勝の実績を持つ、クリスティニー・ムヤンガ選手を迎え、盛大に開催しました。

大会は、晴天のもと、三つの大会新記録が誕生するなど好レースが展開されました。



▶子供たちも懸命に走りました

### 【大会成績】

- 小学校男子
  - 一位 八川小（38・5点）
  - 二位 阿井小（32・5点）
- 小学校女子
  - 一位 三成小（33・5点）
  - 二位 馬木小（31点）
- 中学校男子
  - 一位 仁多中（126点）
  - 二位 大東中（33点）
- 中学校女子
  - 一位 仁多中（68点）
  - 二位 大東中（52点）
- 一般男子
  - 一位 三成支部（101・5点）
  - 二位 阿井支部（93点）
- 一般女子
  - 一位 馬木支部（37点）
  - 二位 布勢支部（30点）
- 一般男女総合
  - 一位 三成支部（116・5点）
  - 二位 阿井支部（105点）



▲クリスティニー・ムヤンガ選手

全国各地の民生・児童委員が出席する「第七十九回全国民生委員児童委員大会」が、十月二十九日、くにびきメッセ（松江市）を主会場に行われ、奥出雲町民生児童委員協議会がテレビ電話を利用した高齢者見守り活動の先進事例として発表を行いました。

発表を行った町協議会の糸原健二老人福祉部長は、テレビ電話を利用して行なう高齢者見守り活動の利点や課題点を、スライド等を使い分かりやすく説明していました。



▲大型スクリーンでテレビ電話実演

## 第79回全国民生委員児童委員大会 高齢者見守り活動 先進事例を発表

▲実演・説明をする糸原部長

また、実際にコールセンターと回線を結び、テレビ電話によるやりとりを実演しました。

テレビ電話の映像は、会場の大型スクリーンに映し出され、臨場感あふれる事例発表となりました。

会場に訪れた全国の委員約八百人は、全国でも珍しい先進的な活動事例に、驚きながらも関心深く聴き入っていました。

### ▼原真人さんデザインの「おろち」



▲石田もとみさんデザインの「稲穂」

町内を走る路線バスに、島根デザイン専門学校生が考案したデザインを施した新車両三台（大型一台、中型二台）が整備されました。

運行開始前日の十月八日、奥出雲交通（株）で納車式が行なわれ、デザインを考案した学生をはじめ関係者約二十人が出席しました。

井上町長から「素晴らしいデザインが出来て嬉しい。バスへの親しみとともに地域交通を守る気運が高まって欲しい」とあいさつされました。

また、『おろち』をデザイン

した原真人さんは「神話、おろち、八雲立つで始まる和歌などから、空の青、金色の雲の黄色をイメージした」、「『稲穂』をデザインした石田もとみさんは「奥出雲の名物をデザインしたいと思い、仁多米についての思い出をイメージした」と考案したデザインへの思いを話されました。

今後、新しいデザインにより奥出雲のイメージをPRするとともに、優しく親しみのある公共交通として利用されることが期待されています。